

【6】戸尾地区「地域福祉“お茶の間トーク”」

“お茶の間トーク”ってなに？

もっと住みやすい戸尾のまちにするために、地域の人々が、2回にわたっていろいろなことを話し合ったのが“お茶の間トーク”です。

参加者の皆さんがグループに分かれて、模造紙や付せん紙を使いながら、誰でも平等・自由に意見を出し合う「ワークショップ」という方法で行われました。

クイズやゲームなどを交えて楽しみながら、大人も子どもも一緒に、まちの中の問題やその解決方法を考えることで、参加者の皆さんの交流にもなりました。

第1回

テーマ：地域のことを見つめ直そう！

～ 地域について考えるきっかけづくり ～

日 程：平成20年2月9日（土）

内 容：●お茶の間クイズ

●地域マップづくり

●地域の“よかところ”・“気になるところ”探し



まずは戸尾地区にちなんだクイズや、大きな地区の中から学校や施設を探すマップづくりに、グループごとに協力して取り組み、コミュニケーションを深めました。

緊張もほぐれたところで、参加者それぞれが思う戸尾地区の“よかところ”と“気になるところ”を出し合いました。

参加した皆さんにとっては、お互いに同じ悩みを持っていたり、知らなかったことを再発見するいい機会になったようです。

※下のような意見が多く出されました。



【よかところ】

- 戸尾商店街やスーパーがあり買い物が便利
- 公共施設があり便利
- 交通の便がよい（駅、バス、タクシー）

【気になるところ】

- 少子高齢化が進んでいる
- ごみ出しのマナーが悪い
- のら猫が多くてうるさい

\\ 皆さんも戸尾地区“お茶の間クイズ”に挑戦してみましょう！ //

問1 旭中学校創立30周年を記念して建立された石碑には「〇〇に のぼる旭の如くあれ」と彫られています。〇〇は何でしょうか？

- ① 烏帽子岳 ② 富士山 ③ 夏山

問2 目が見えない人や弱視の人に対するバリアフリーとして、横断歩道が青信号の時に、音で誘導するものがありますが、戸尾町から下京町(アーケード)へ向けて国道を横断するときの音は次のどれでしょうか？

- ① とおりゃんせ ② カッコー ③ ピヨピヨ

問3 1955年(昭和30年)に本島町にオープンした「虎屋デパート」のオープン当日の開店時刻から正午までに訪れた客の人数は何人でしょうか？

- ① 延べ3万人 ② 延べ10万人 ③ 延べ20万人

※答えはP8の下にあります。

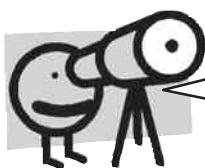


第2回

テーマ：地域みんなにできることを探そう！
～ 小さなことでも地域のために～

日程：平成20年3月1日（土）

内容：●グループ対抗発想ゲーム
●気になり具合診断
●みんなにできることを探そう



第2回も、まずはゲームなどで交流した後、前回出された“気になるところ”の中から、皆さんの意識が高い問題を選びました。

さらに、その“気になるところ”を解決するために、「地域みんなにできることはないのか」が話し合われました。

グループごとにいろいろな世代の方から、自由に、そして熱心に意見が出されていました。

※出された意見の中からいくつかご紹介します。

【問題】

空き缶やたばこなどの
ポイ捨てが多い



【“みんなにできること”の意見】

- ポイ捨て防止の標語や看板を設置しましょう
- 一人ひとりが町内美化を心がけましょう

参加した皆さんの感想から

◎他の町内の方とも交流ができたので、もっと話を聞き前向きに考えていきたいと思う。

◎何事も深く考えると難しくなるので、できることからはじめてみようと思った。

“お茶の間トーク”のねらいはこういうところにもあります。



まずは、戸尾地区の皆さん一人ひとりが、地域を良くしたいという気持ちを持ち、“できること”を考え取り組むことが大切です。

◎この“お茶の間トーク”での意見を基に、福対協が中心となってまとめました。

◎次のページからの“みんなの力でできること”をぜひ実行していきましょう！

